

2022年度 第3四半期決算 カンファレンスコール

2023年2月6日

取締役CFO

半田 宗樹

01

2022年度 第3四半期決算概況

02

国内事業、中国事業の取り組み、進捗状況

03

2022年度 業績予想

TSUMURA VISION “Cho-WA” 2031実現へのロードマップ



医療用漢方事業	漢方治療の標準化	10処方以上処方医師 50%以上	診療領域基本処方すべて 処方する医師50%
	漢方治療の個別化		

研究開発	漢方治療の個別化 未病の科学化	研究	開発	社会実装
-------------	--------------------	----	----	------

中国事業	製剤PF	中成薬事業	参入	基盤構築	ブランド確立
	生薬PF	生薬・飲片・ 「薬食同源」製品	売上拡大	ブランド確立	業界の発展リード
	研究PF	中薬研究センター	設立	機能拡充	中成薬エビデンス構築

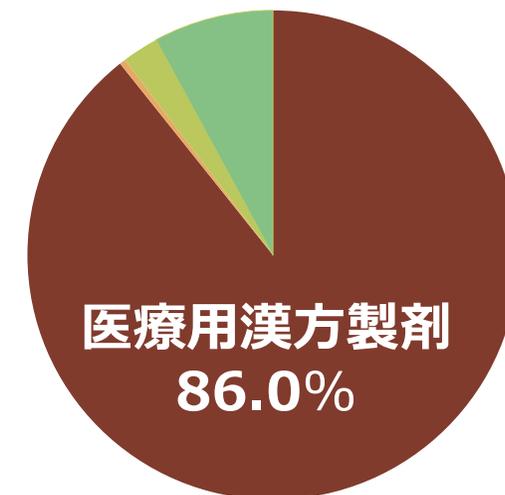
スマートファクトリー	自動化範囲拡充	監視・管理へのシフト	スマートファクトリー実現
-------------------	---------	------------	--------------

労働生産性	営業	1MRあたり売上高 (円/MR)	生産性2倍 (2021年度比) ₃
	生産	物的労働生産性 (箱/人)	
	生薬	生薬手配量あたり人件費 (円/t)	

2022年度 第3四半期 決算概況

【百万円】	2021年度 3Q実績	2022年度 3Q実績	前年同期比	
			金額	増減率
売上高	98,382	107,076	+8,694	+8.8%
国内事業	-	96,355	-	-
中国事業	-	10,721	-	-
営業利益	18,829	17,723	△1,106	△5.9%
国内事業	-	17,882	-	-
中国事業	-	△159	-	-
経常利益	21,074	21,410	+335	+1.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	15,389	15,875	+486	+3.2%
PL換算レート※（円/元）	16.78	19.41	+2.63	-

売上高構成比率



- 連結子会社外販 10.7%
- 一般用漢方製剤等 3.1%
- その他医療用医薬品 0.2%

※海外子会社PL取込時のレートであり、原料生薬の輸入レートとは異なる

国内・中国事業の伸長により増収、四半期純利益は増益（営業利益は減益）

売上高	107,076	百万円	前年同期比	+8.8%
------------	----------------	------------	-------	-------

- 国内事業
 - 医療用漢方製剤（129処方）：91,941百万円 前年同期比 5.3%伸長
 - 一般用漢方製剤等：3,358百万円 前年同期比 18.8%伸長
- 中国事業：10,721百万円

営業利益	17,723	百万円	前年同期比	△5.9%
-------------	---------------	------------	-------	-------

営業利益率	16.6	%	前年同期比	△2.5pt
--------------	-------------	----------	-------	--------

- 原価率：50.9% 前年同期比 +2.1pt : 主に中国外部販売増、生薬以外の原資材高騰の影響
- 販管費率：32.5% 前年同期比 +0.4pt : 主に天津工場の本稼働に向けた一時費用等

経常利益	21,410	百万円	前年同期比	+1.6%
-------------	---------------	------------	-------	-------

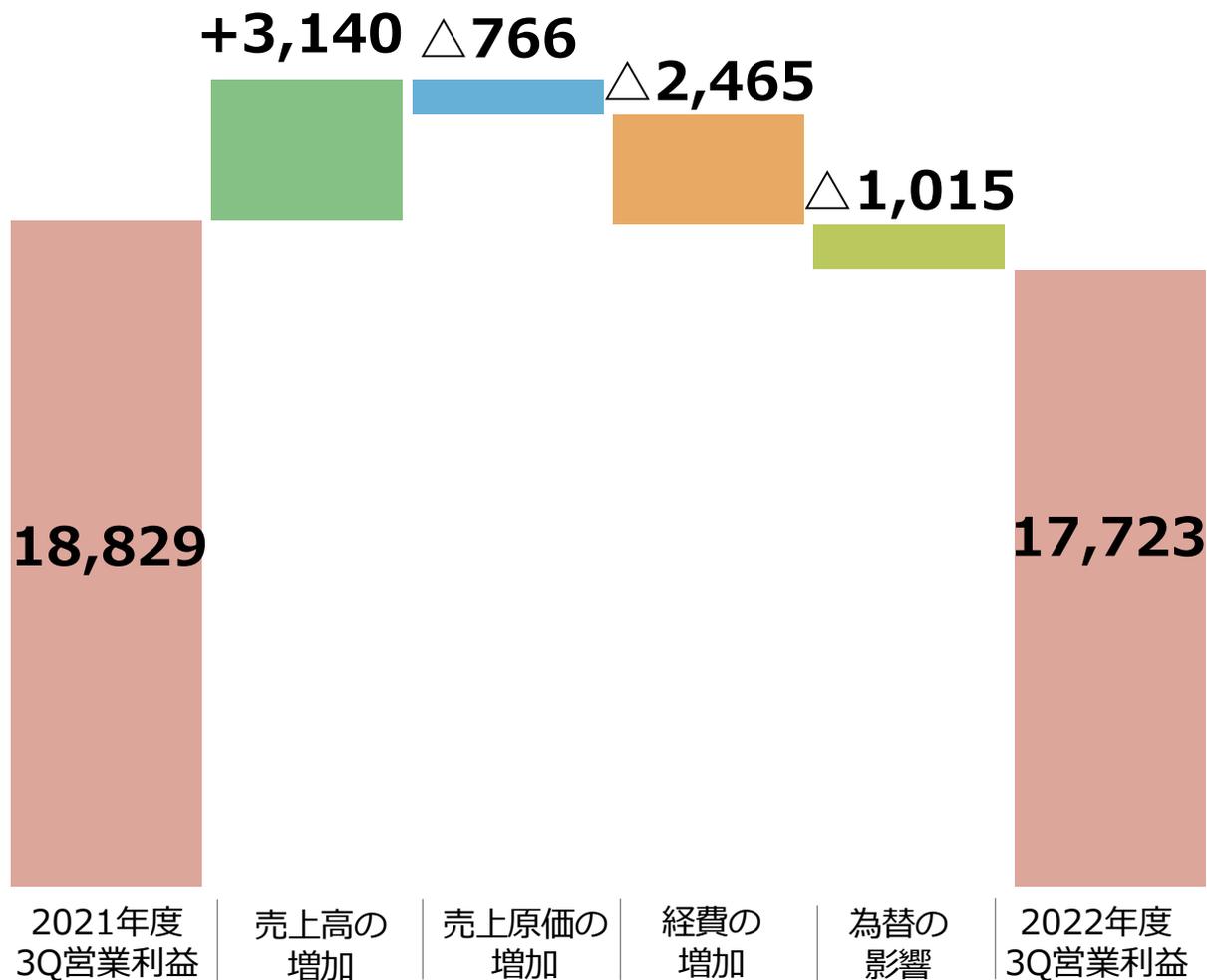
- 海外子会社への貸付金等に係る為替差益：2,906百万円 前年同期比 +1,485百万円 円安の影響

親会社株主に帰属する 四半期純利益	15,875	百万円	前年同期比	+3.2%
-----------------------------	---------------	------------	-------	-------

- 特別利益：関係会社の有償減資による払戻差益：463百万円

営業利益の増減要因（前年同期比）

(百万円)



(百万円)

売上高の増加 +3,140百万円	
国内	+2,684
海外	+456
売上原価の増加 △766百万円	
生薬調達コスト	△49
原資材費（原料生薬以外の資材）	△365
加工費等	+17
外部販売（中国事業）	△369
経費の増加 △2,465百万円	
減価償却費（天津工場の一時的費用含む）	△644
研究開発費	△403
広告宣伝費	△140
給与諸手当（天津工場の一時的費用含む）	△116
販売促進費	△109
その他（活動経費、システム導入費用等）	△1,053
為替（円安）の影響 △1,015百万円	

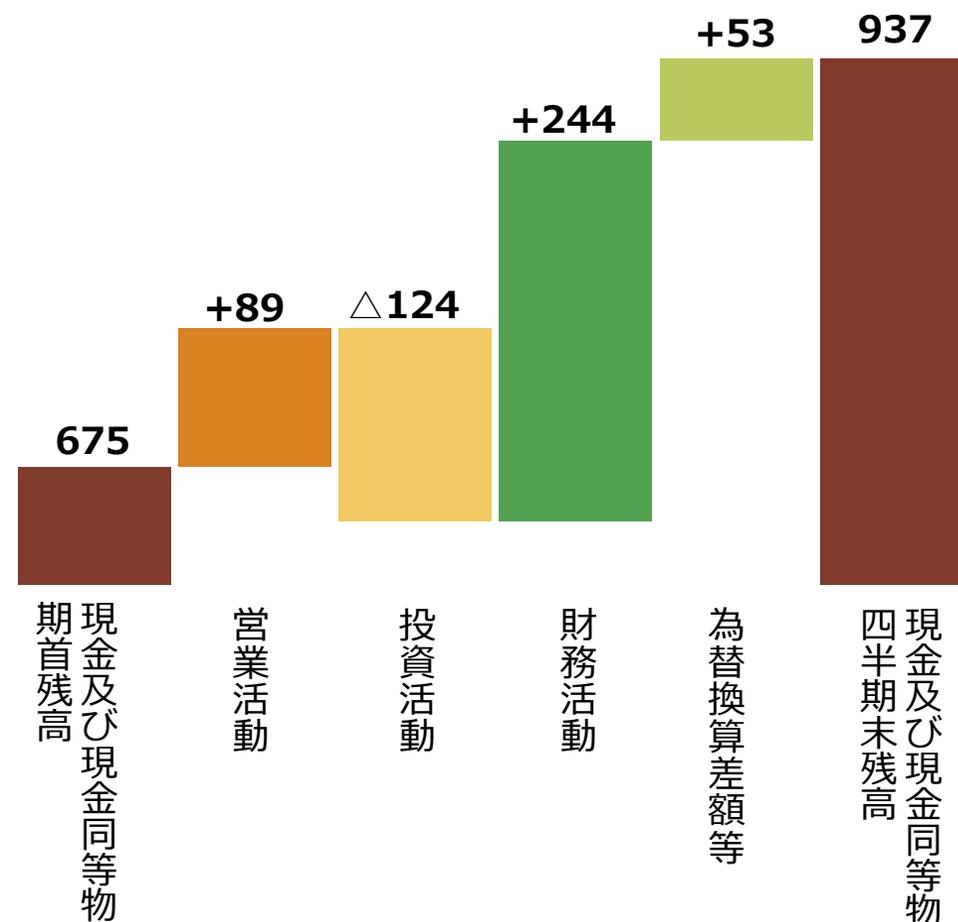
財政状態 および キャッシュ・フロー

(百万円)

社債発行 300億円 (2022年9月8日)

	2021年度 (2022.3)	2022年度 3Q	増減額
資産合計	350,981	400,958	49,977
流動資産	229,420	270,962	41,542
固定資産	121,561	129,995	8,434
負債合計	92,871	121,276	28,404
流動負債	45,875	43,696	△2,179
固定負債	46,996	77,580	30,583
純資産合計	258,109	279,682	21,572
自己資本比率	68.3%	64.3%	△4.0pt

(億円)



	2021年度 (2022.3)	2022年度 3Q	増減額	内、為替
棚卸資産計	92,751	101,079	8,327	7,528
商品及び製品	10,247	9,077	△1,169	406
仕掛品	13,614	14,072	457	236
原材料及び貯蔵品	68,889	77,929	9,040	6,886

01

2022年度 第2四半期決算概況

02

国内事業、中国事業の取り組み、進捗状況

03

2022年度 業績予想

製品の供給状況

- 猛暑による季節性処方的大幅な需要増（前年同期比 150%）
- COVID-19による風邪関連処方の需要急増（前年同期比 130～300%）
- ※ 上海ロックダウンに伴う上海工場の稼働停止による減産（2022/3/21～5/5）
→BCP（事業継続計画）に基づき、国内工場での代替生産を実施

2022年8月29日から一部品目を限定出荷 ※現行では、28品目が限定出荷

限定出荷の解除に向けた対応

- 人員の増強 各工場（茨城、静岡、上海）にて生産人員を増員
- 稼働日数の増加 従来からの3交替24時間連続操業に加え、休日出勤、春節時の稼働など
- 稼働能力の向上 品目切り替え時間の短縮など
- 天津工場の出荷開始時期前倒し バリデーション完了および製造所追加の承認取得の早期化

3月末～ 順次解除の見通し ※ただし、インフルエンザ流行、COVID-19の感染拡大の状況により変動の可能性あり

1期はプロセスバリデーション（PV）を実施中で、2023年度4Qに出荷開始予定
PV完了および製造所追加の承認取得の早期化により出荷開始時期前倒しを目指す

■天津工場の概要

建設目的	国内事業向けの漢方エキス粉末（中間製品）の増産 製造拠点を日本2拠点（茨城、静岡）、中国2拠点（上海、天津）へ増加
会社名	天津津村製薬有限公司
場所	中国 天津市
投資額	1期：約150億円 2期：約100億円 3期：約150億円
生産能力	2,250t/年 ※3期までがフル稼働した時点

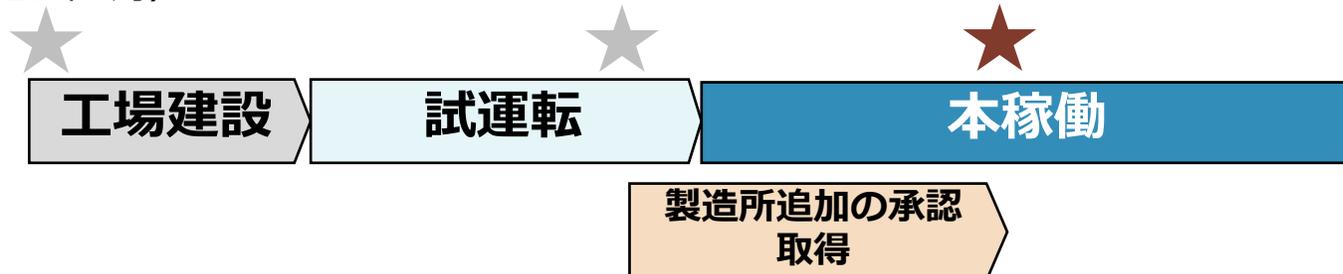


■1期立ち上げのスケジュール

建設開始
(2019年4月)

PV開始
(2022年8月)

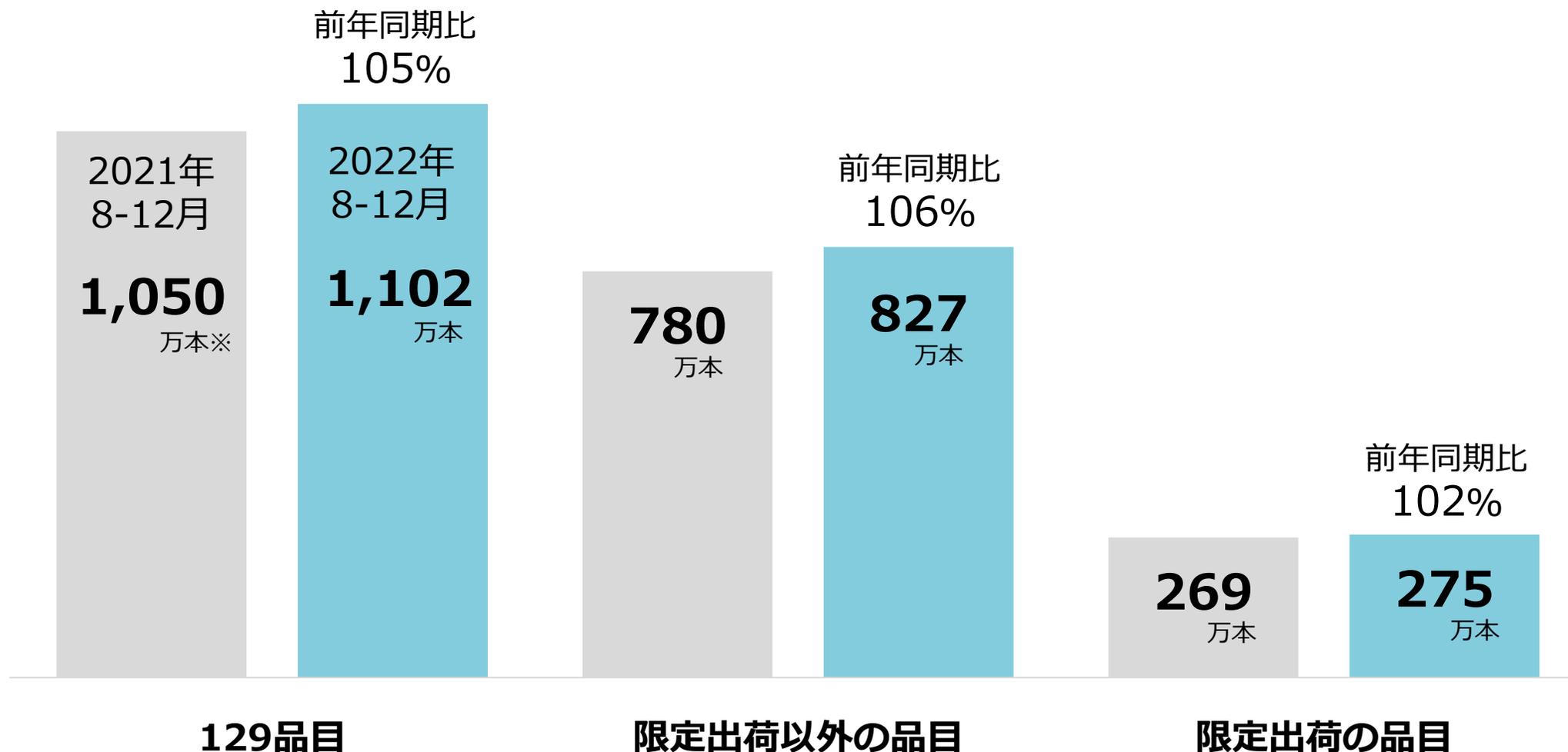
出荷開始
(2023年度4Q予定)



■製造費用の会計処理

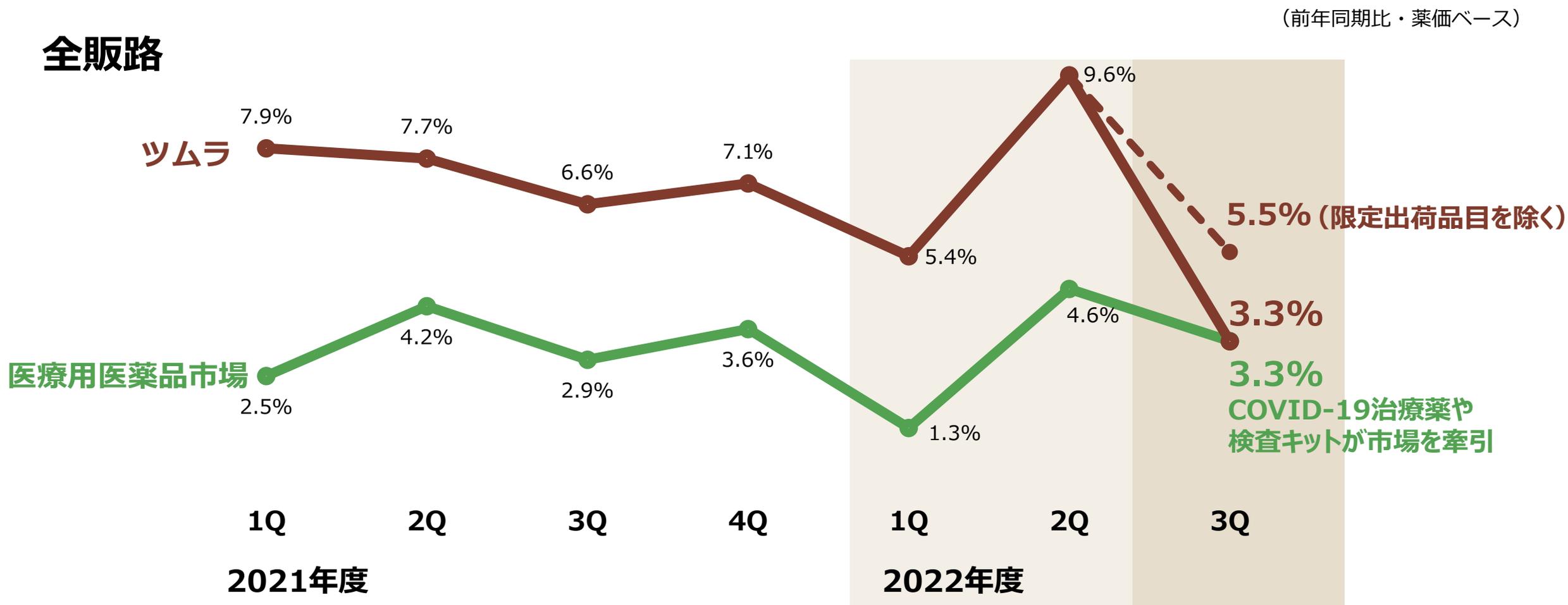
- ・ 試運転開始～PV開始まで
→ 販管費
- ・ PV開始以降
→ 棚卸資産・原価

限定出荷後においても、医療用漢方製剤129品目は105%を維持



※1本：標準包装1箱（1箱は9週間分入）

薬価ベースでは 3.3% の伸長（前年同期比）、限定出荷の影響により伸長率が鈍化

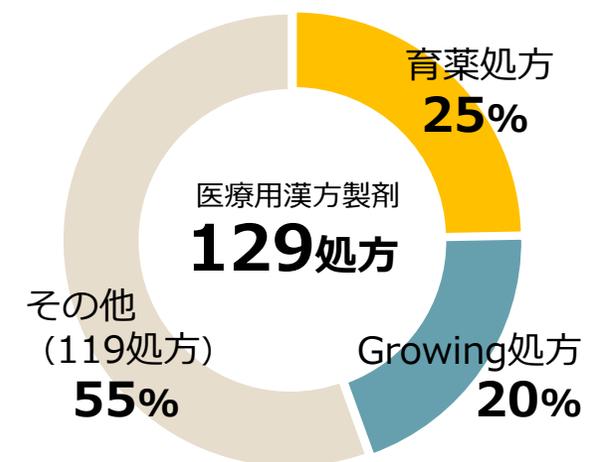


育薬処方・Growing処方 売上高

(百万円)

	売上 順位	製品No. / 処方名	2021年度3Q	2022年度3Q	前年同期比	
育薬 処方	1	100 大建中湯	7,334	7,482	+147	+2.0%
	3	54 抑肝散	5,678	5,687	+9	+0.2%
	4	43 六君子湯	5,548	5,644	+96	+1.7%
	8	107 牛車腎気丸	2,687	2,633	△54	△2.0%
	24	14 半夏瀉心湯	1,052	1,078	+26	+2.5%
育薬処方合計			22,301	22,527	+225	+1.0%
Growing 処方	2	41 補中益気湯	5,655	6,096	+441	+7.8%
	5	17 五苓散	4,111	4,821	+710	+17.3%
	6	24 加味逍遙散	3,752	3,935	+183	+4.9%
	16	108 人参養栄湯	1,488	1,624	+135	+9.1%
	17	137 加味帰脾湯	1,332	1,600	+267	+20.1%
Growing処方合計			16,340	18,078	+1,738	+10.6%
育薬・Growing処方以外の119処方合計			48,650	51,335	+2,684	+5.5%
医療用漢方製剤129処方合計			87,293	91,941	+4,648	+5.3%

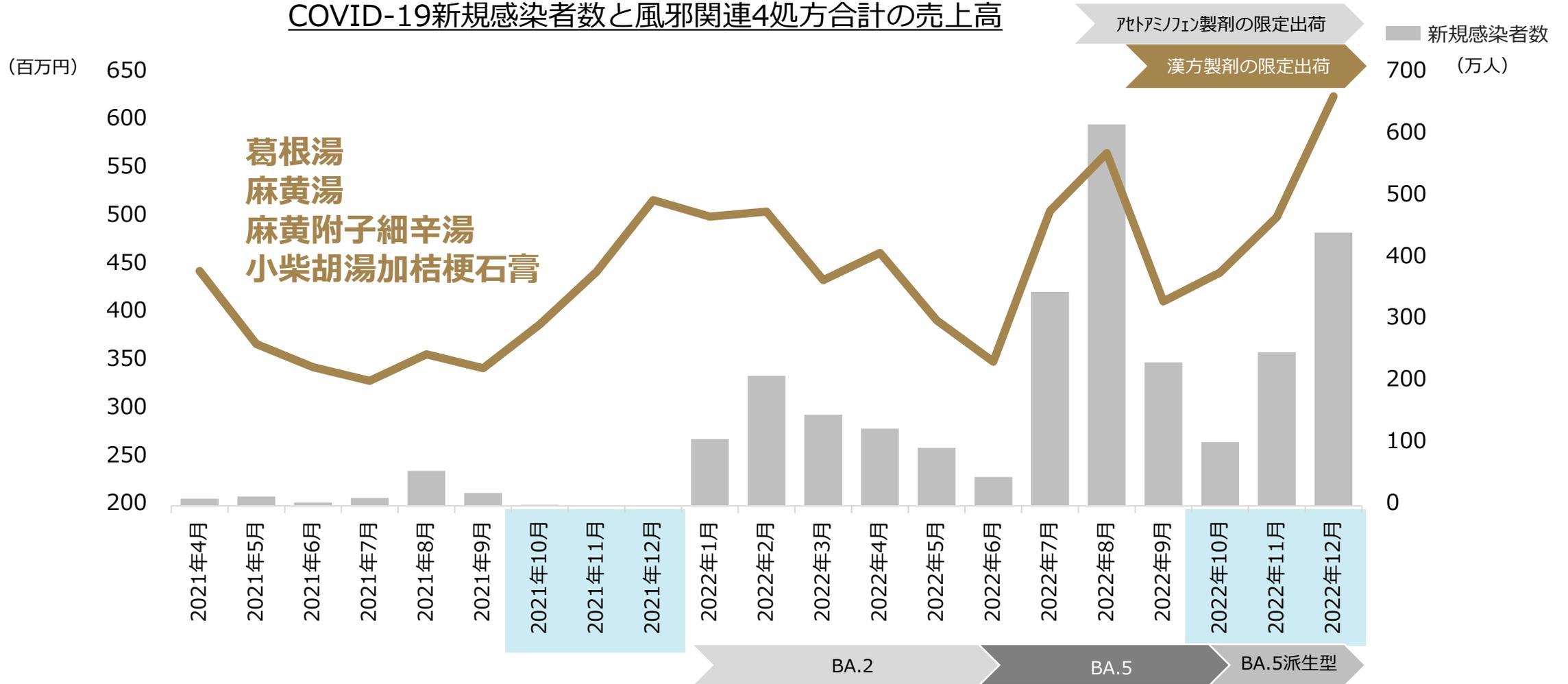
売上高構成比率



※牛車腎気丸は2022年8月より限定出荷

COVID-19の感染者増加により風邪関連処方需要が高まる

COVID-19新規感染者数と風邪関連4処方合計の売上高

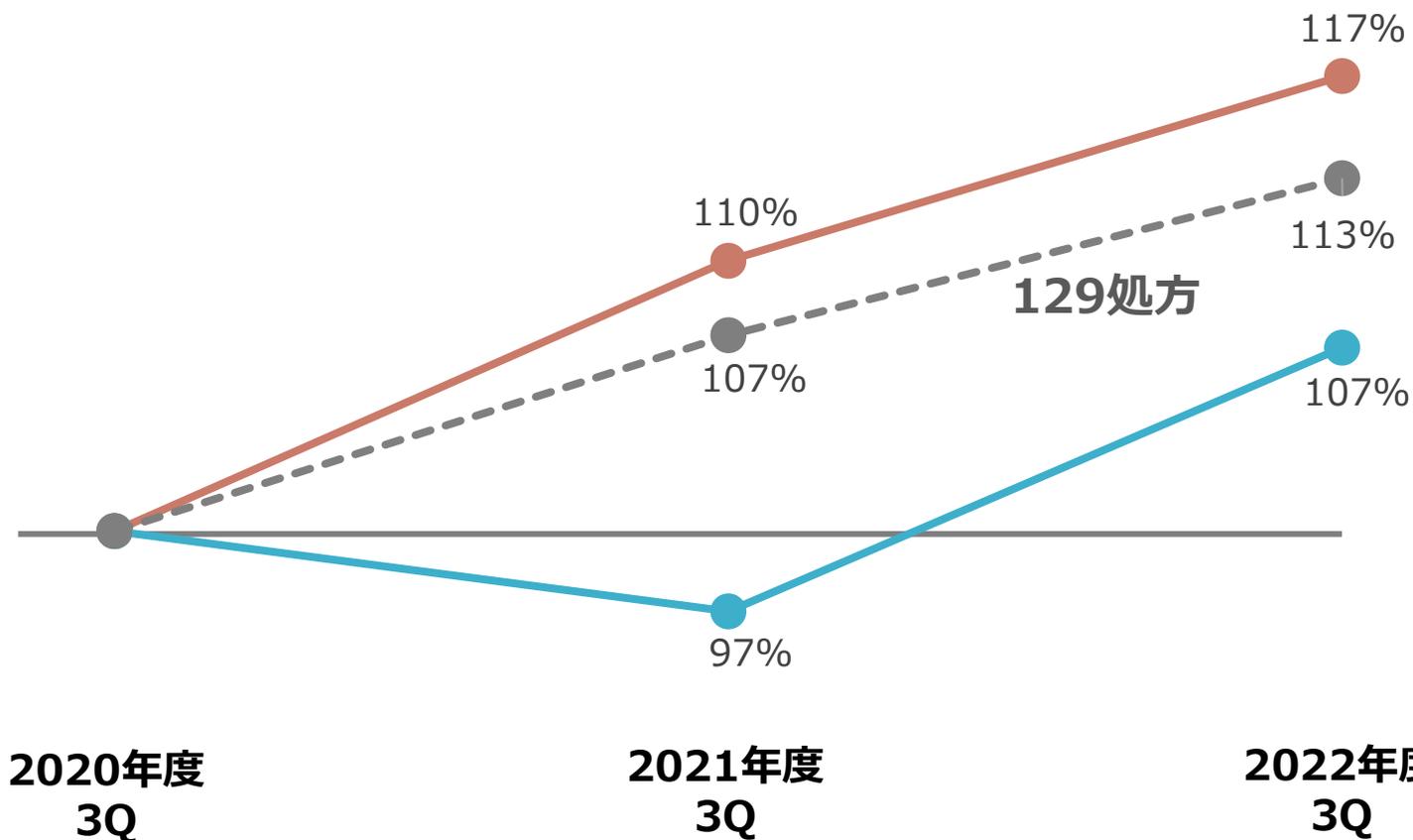


※葛根湯、麻黄湯、麻黄附子細辛湯、小柴胡湯加桔梗石膏は2022年8月より限定出荷

棒グラフ：厚生労働省オープンデータ：新規陽性者数の推移（日別）より
線グラフ：実売（仕切価：当社データ）

COVID-19に関連する症状に対して処方され、風邪処方についても回復

(出荷数量ベース：伸長率)



✓ 生活環境変化により増加 →

- 不安感、不眠 (6処方)
- 倦怠感 (2処方)
- めまい (2処方)
- マスク着用による肌荒れ、にきび (4処方)

✓ オミクロン株の流行により増加 →

- 風邪、インフルエンザなど (13処方)

漢方薬の使い分けに関する情報提供ニーズに対応した仕組みを構築

e-プロモーション

メディカルサイトの拡充

- ・ 漢方薬の使い分けセミナー
- ・ 漢方オンラインサロン など



MR活動

処方化、定着化に向けた活動

- ・ 漢方カスタムファイル
による使い分け提案
- ・ 講演会、研究会の開催 など



使い分けの理解を深める
「漢方カスタムファイル」

【第1期中計における目標】

漢方薬を10処方以上
使い分けされる医師を
50%以上へ

海外売上高比率50%を目指し、中薬業界の発展をリードする中薬企業へ

FY2022 - 24

FY2025 - 27

FY2028 - 31

製剤PF

中成薬事業への参入

中成薬企業のM&A
古典処方の申請

中成薬事業の基盤構築

外部販売比率50%超

**中成薬企業として
ブランド確立**

業界TOP10

売上イメージ
70億元以上

生薬PF

**生薬・飲片・「薬食同
源」製品の売上拡大**

外部販売比率
50%超

**生薬・飲片・「薬食同
源」製品のブランド確立**

公立病院販路の拡大
(M&Aを含む)

**業界の発展をリード
する生薬・飲片企業**

中国トップシェア

売上イメージ
30億元以上

研究PF

中薬研究センター設立

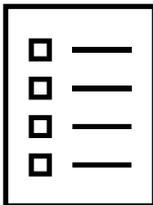
**中薬研究センター
機能拡充**

中成薬エビデンス構築

【第1期中計における目標】

中成薬事業への参入：中成薬企業のM&A、古典処方への上市申請

中成薬企業M&Aのプロセス


中薬・中成薬
TOP100企業など

ロングリスト
100社程度

個別情報
40社程度



選定条件

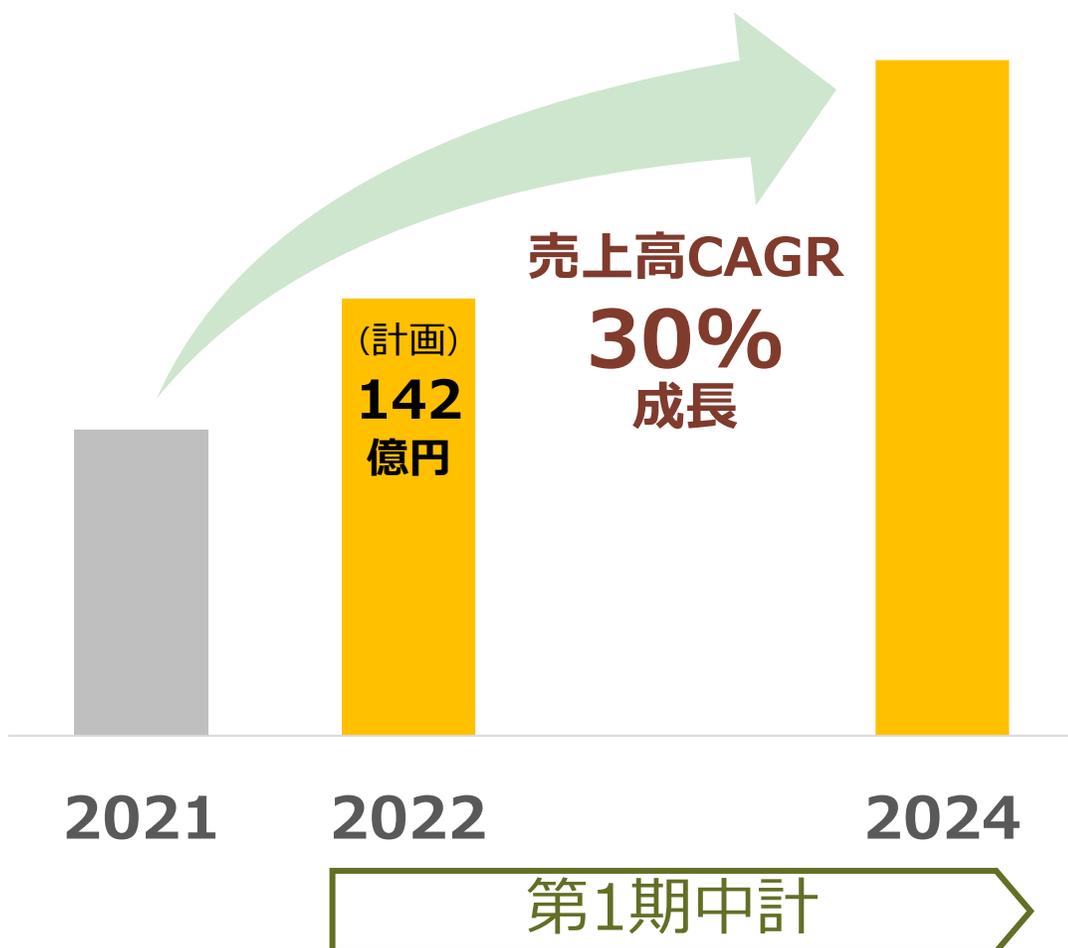
- マジヨリティ取得（※品質保証体制の確保のため）
- 古典由来処方へのライセンスの保有状況
- 既存中成薬事業の状況
- 財務指標
- 当社グループ理念への理解

複数の企業と具体的な交渉を継続

※健民薬業集団とは合併会社設立に関する意向書を締結（2022年8月3日）

【第1期中計における目標】

生薬・飲片・「薬食同源」製品の販売拡大による売上高CAGR30%成長



原料生薬



競争力の高い品目の強化

- ・ 人参ブランドNo.1
- ・ 優位品目の拡大
- ・ GACP管理強化
- ・ 業界標準策定のリード

飲片（刻み生薬）



高品質飲片ブランド確立

- ・ 公立病院販路の拡大
- ・ 平安健康販路の拡大
- ・ 飲片サービスの推進

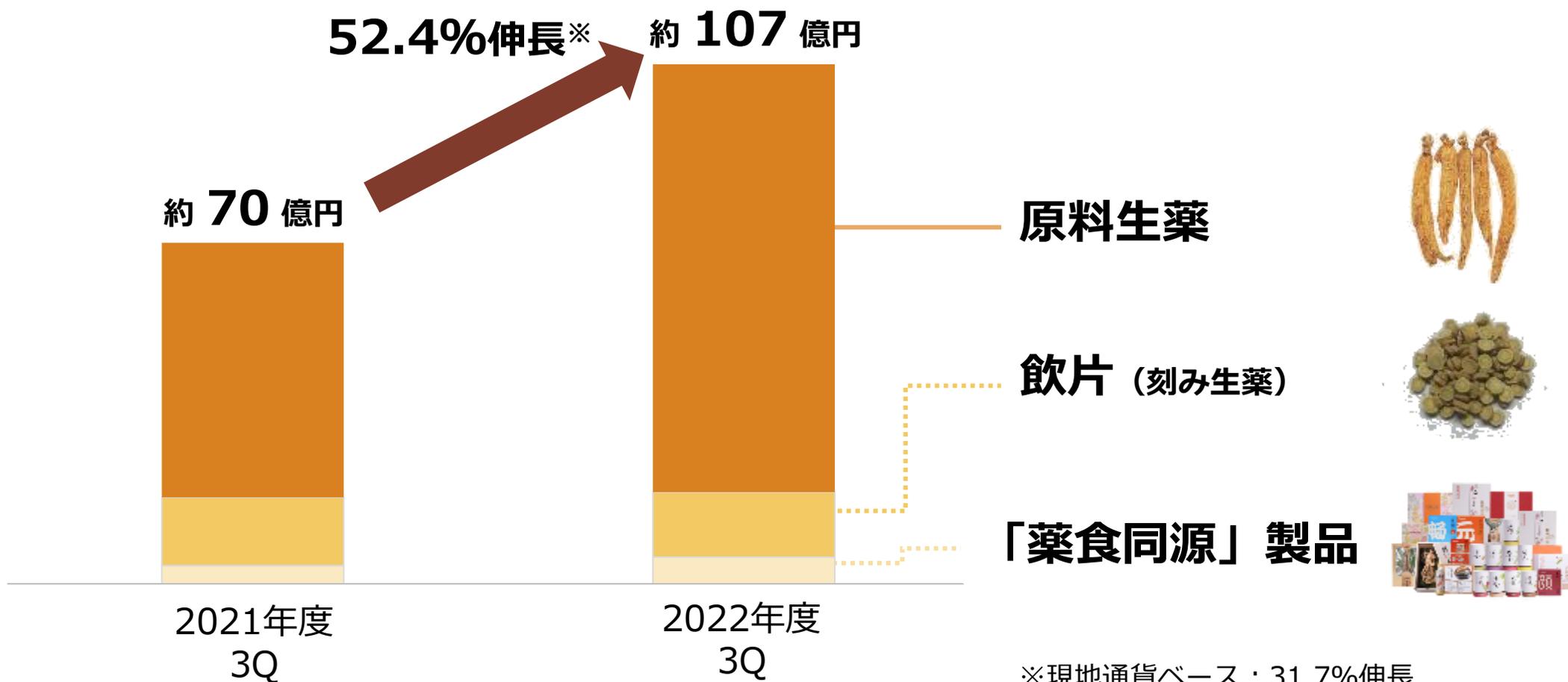
「薬食同源」製品



新製品の開発促進ブランド構築

- ・ 高付加価値製品の開発
- ・ オンライン販路の拡大
- ・ 信頼されるブランド構築

- 原料生薬を中心に売上高が伸長
- COVID-19の感染者が一時増加したが、日本向けの原料生薬および漢方エキス粉末（中間製品）の供給および中国事業の販売への影響はなし



01

2022年度 第1四半期決算概況

02

国内事業、中国事業の取り組み、進捗状況

03

2022年度 業績予想

2022年度 業績予想 (変更なし)

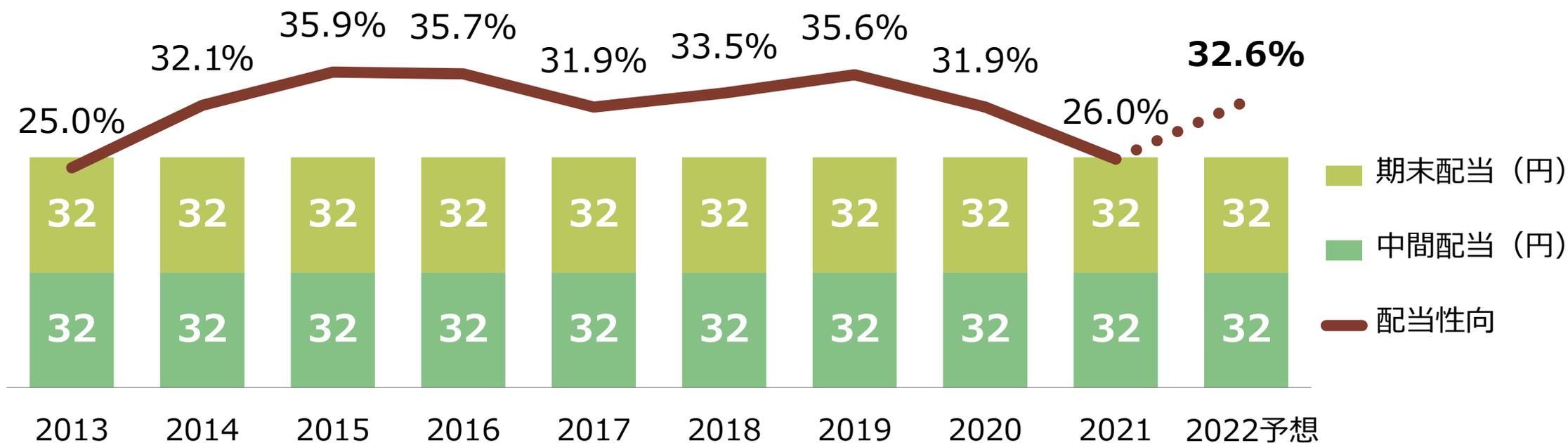
【百万円】	2021年度 実績	2022年度 予想	前年比	
			金額	伸長率
売上高	129,546	138,500	+8,953	+6.9%
国内事業	—	124,300	—	—
中国事業	—	14,200	—	—
営業利益	22,376	20,800	△1,576	△7.0%
国内事業	—	21,200	—	—
中国事業	—	△400	—	—
経常利益	25,904	21,200	△4,704	△18.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	18,836	15,000	△3,836	△20.4%

配当金 (1株あたり)	64 円	64 円
EPS	246.2 円	196.1 円
ROE	8.2 %	6.0 %

(注) 為替影響(営業外損益)については、為替相場の状況から、合理的に算定することが困難であるため、業績予想には織り込んでおりません。

方針

- 国内事業の持続的な拡大と中国事業の成長投資および基盤構築を通じて、企業価値の向上を図る
- 中長期の利益水準やキャッシュフローの状況等を勘案し、安定配当を実施する



(注) 2022年度期末配当金・配当性向(予想)は、第87回定時株主総会による配当議案決議が前提の予想数値を記載

コーポレート・コミュニケーション室

IR推進グループ

investor_madoguchi@mail.tsumura.co.jp

見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。したがって、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制の変更や、金利・為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少したりした場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。

Appendix

ツムラ
医療用医薬品全体

(前年同期比・薬価ベース)

